
ルーキー

ロキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ルーカー

【Nコード】
N5219A

【作者名】
ロキ

【あらすじ】
平凡な日常に飽き始めた女子高生の波（本條波）は、たまたま入った占いの館の占師に地図が書かれた紙を渡され、そこに書かれたとおりの場所に行く事にした。占いの館を出て見るとさっきまであった占いの館がなくなっていた。辺りを見回すとさっきと風景が違うことに気づいた波。占師に言われた事務所が目の前にあった。入って見るとそこには茶髪で背が高くて歳は17〜20歳ぐらいだろうか。大人びていて、かつこ良かった。そして、波はルピ力と言う、女の子が自分のなかにいることを知った。第一章終わり

プロローグ

私は何もかもが普通だった。学校の成績や容姿、考える事…皆と同じように動き、皆と同じように生活する… つまらなかった。正直魔法や幽霊なんて信じてない。だから、なおさらつまらなかった。でも、ある日出会ったんだ。私の運命を変える人に…

プロローグ（後書き）

私は何もかもが普通だった。学校の成績や容姿、考える事…皆と同じように動き、皆と同じように生活する… つまらなかった。正直魔法や幽霊なんて信じてない。だから、なおさらつまらなかった。でも、あの日出会ったんだ。私の運命を変える人に…

第二話 町中のミステリー（前書き）

「あーあ。つまらないなあ」と、独り言感覚で言っていた。制服を見れば女子高生だと分かった。

「なんか、ないかなあ…」と、また独り言をいい始める。それも、歩きながら。

足が止まった。彼女の目線の先に目をやると、そこには…「占いの館？こんなのであったっけ？」

と、彼女はその建物をまじまじと見つめる。考えこんでしまったと思っただけの（占いの館）に入って行く。

「あの…すみませーん誰かいませんか？」占いの館は真つ暗でまるでお化け屋敷みたいに通路は長かった。その通路をまっすぐいくと、光が見えた。光と、言ってもそんなに明るくない。

「やっと、着いた！」

第二話 町中のミステリー

私は何もかもが普通だった。学校の成績や容姿、考える事…皆と同じように動き、皆と同じように生活する… つまらなかった。正直魔法や幽霊なんて信じてない。

だから、なおさらつまらなかった。

でも、ある日出会ったんだ。私の運命を変える人に… 「あーあ。つままないなあ」

と、独り言感覚で言っていた。制服を見れば女子高生だと分かった。「なんか、ないかなあ…」

と、また独り言をいい始める。それも、歩きながら。

足が止まった。彼女の目線の先に目をやると、そこには…

「占いの館？こんなあつたつけ？」

と、彼女はその建物をまじまじと見つめる。考えこんでしまったと、思ったがあのかの（占いの館）に入って行く。

「あのか…すいませーん誰かいませんか？」

占いの館は真つ暗でまるでお化け屋敷みたいに通路は長くかった。その通路をまっすぐいくと、光が見えた。光と、言ってもそんなに明るくない。

「やっと、着いた！」 そこには、占師と思える女性がいた。思っていたより、若くて黒いマントを羽尾っていた。「どうぞ。こちらへお座りください」

占師の方からしゃべった。「はい…お願いします。」

占師が喋りだした。「あなたは、毎日がつまらない…」

「えっ！どおしてそんなこと…」

占師はかまわず喋る。

「もう平凡な生活は嫌だと、思っているでしょう？」

彼女はびっくりして声すらでない。また、占師は喋る。

「ここへ行きなさい。ここへ行けばつまらないことなんてなくな

るわ」

と、一枚の紙を渡された。

「あなたの名前は？」

占師は聞いてきた。「本條波です。」

「そう、波ちゃんって言うの、それじゃあね。波ちゃん。」
と、占師が言った瞬間目の前が暗くなった。

きずいて見るとそこには占いの館などなくさっきいた場所でもない。占師からもらった紙を見て見ると、白夜事務所と、書かれていた。

「どうなってるの？さっきは地図だったのに。」

と、波は立ち尽くす。考えたあげく行くことにした。あの、占師の言葉を信じて…

第二話 町中のミステリー（後書き）

そこには、占師と思える女性がいた。思っていたより、若くて黒いマントを羽尾っていた。「どうぞ。こちらへお座りください」占師の方からしゃべった。「はい…お願いします。」

占師が喋りだした。「あなたは、毎日がつまらない…」

「えっ！どおしてそんなこと…」占師はかまわず喋る。

「もう平凡な生活は嫌だと、思っているでしょう？」

彼女はびっくりして声すらでない。また、占師は喋る。「ここへ行きなさい。ここへ行けばつまらないことなんてなくなるわ」と、一枚の紙を渡された。

「あなたの名前は？」占師は聞いてきた。「本條波です。」

「そう、波ちゃんって言っの、それじゃあね。波ちゃん。」

と、占師が言った瞬間目の前が暗くなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5219a/>

ルーキー

2010年10月15日23時39分発行